

## 第六次多摩市総合計画基本構想（素案）に関するパブリックコメント

提出者	意見本文
1	<p>時代の変化を見据え、多様な個性、価値観、方法で活力とにぎわいのあるまちを目指す為に、子供も親も高齢者が様々な市民活動、コミュニティ生活学習、社会教育、文化分野、地域での学び合い、活動が必要になると考えています。</p> <p>みんなが多様な働き方を実現し、地域にある緑や資源を大切にしながら、環境問題を自分事として捉え、2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向けて行動していく必要があります。自然環境を支える人材が育ち、豊かなみどりと親しみのある水辺環境が保全・創出され、生物多様性が維持・向上されています。</p> <p>また、持続可能な循環型社会への転換を目指し、環境への負担が少ない活動を続けていきたいと考えています。</p> <p>学校、家庭、地域社会の連携、協働によって、子どもたちの学びや育ちを支える環境が整い、子どもたちがともに学び合いながら、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた生きる力を身に付ける為に、見守りパトロールや様々な活動の機会、学びの場を検討して参ります。10年後、20年後、その後の多摩市の未来を担う若者や子ども達の生きる力と共に協力して支えるまちにしてゆければと考えています。</p>
2	<p>私はつい先日多摩市に引っ越してきたばかりのものです。</p> <p>引っ越してきてから感じていることがあったので意見を伝えたいと思っていたところ、ちょうどたま広報を拝見し意見を募集されていたので思い切って今回書かせていただきました。</p> <p>私の家族構成は、主人と小型犬1匹の三人(?)家族です。</p> <p>まず、多摩市に引っ越してきて一番はじめに感動したのは、圧倒的な緑や公園の多さです。</p> <p>以前住んでいた市も都内なのに自然が多いところが好きでしたが、多摩市は比べ物にならないほどの規模で驚きました。</p> <p>また、桜ヶ丘公園のドッグランもさっそく利用させていただいています。</p> <p>あと個人的に感動したのが、桜ヶ丘公園内の水道脇にある犬の水飲みスペースです！</p> <p>人間と人間以外の生き物へのやさしさと愛情を感じました。</p> <p>ちょうど同時期くらいに愛犬家の知人が都内のある市へと引っ越したのですが、その市も緑がとても多いので、犬にとっては良い環境と思い引越したのにいざ引っ越してみたら多くの公園が犬を連れて行くこと自体を禁止されていることを知りとても落胆していました。</p> <p>その話を聞いて私は多摩市とはずいぶん違うな…と感じました。</p> <p>話を戻しますが、私と主人には子供がおりません。</p> <p>私たち夫婦はマルチーズの女の子を家族に迎えて大切に飼育しています。</p> <p>よく私たちはおでかけをするのですが、いろいろなところへ旅行やドライブに連れていったりしています。(たびたび行くのは千葉県房総ですが遠い場所では広島宮島まで連れて行きました。)</p> <p>私の周りにも私のような人がたくさんいまして、子供がいなくて犬や猫を飼っている人がたくさんいます。</p>

私が思うにこれからそんな人はたくさん増えていくのでは？と思います。

もちろん国や自治体の今やっておられる取り組みでこれからお子さんがたくさん増えていくのが望ましいことではあると思いますが、なかなか難しいのが現状だと思います。前置きが長くなりましたが、そこで私はこのようなプランを考えてみました。

多摩市へのご提案～人にもペットにも優しい街づくり～

なんとなくですが私は今後下記のような流れが来るのでは？と予想しました。

これからもお子さんがいない独身の方、またはご夫婦が増えていく。

↓

ワンちゃんねこちゃんを飼う人がますます増えていく

↓

ワンちゃんねこちゃんに優しい住みやすい市を探す人が増えてくる

！そこで！

多摩市がワンちゃんねこちゃんに優しい環境の市であることをアピールする

↓

たくさんのお犬家お猫家の人たちが移住してくる

↓

多摩市は活性化して税収が増えてさらに発展していける、またその収益を使って犬猫以外の部分でも色々と良くすることができるようになる。

まず多摩市が人にも動物、自然にも優しい市であるということをお大々的に知ってもらえるだけでもプラスの作用しかないと思います。私がアンテナを張ってなかっただけでも引越してくるまで私は多摩市がこれほど人や動物に優しい市であるということを知りませんでした。

私のようにまだまだ知らないでいる方も多いのかもしれない。

これは是非とも知っていただいたほうが良いと思います！

具体的なアイデア

今までどおりでも十分多摩市は人にも動物にも優しいのですが今後さらに多摩市に移住していただけるように私は具体的なアイデアを考えました。

公園や緑はとても素晴らしいのでさらなるアピールポイントを考えました。

犬も一緒に入れるカフェ・飲食店を増やす

多摩市は公園部門は100点満点だと思いますが、ペットと入れるお店が少ないと思います。

そこでペットも入れるお店を増やすと良いのでは？と思いました。

愛犬家の人は可愛いわが子と一緒に出かけできるのを生きがいに感じている方も多いです。多摩市の美しい環境のなか一緒にお茶や食事や場合によっては少しお酒を楽しんだりできるお店の選択肢がもしもたくさんあったのなら非常に喜ばれると思います。

(私は喜びます!)

そのためには新しくお店を出していただくのはもちろん嬉しいのですが、なかなかハードルが高いので既存のお店もペットOKのお店に変えていただけるといいなと思います。

もちろんペットが苦手な方もいますのでうまく店内で分けるとか、外にテラス席を作るとかしてうまく棲み分けが出来たら、と思います。

とはいえ、お店を出すのも、テラス席を作るのもお金がかかることですので経営者側にとっては負担であると思います。

そこで、多摩市にお願いしたいのは、そういったお店に補助金を出していただきたいということです。

お店の規模や、新設なのか既存のお店の改修なのかによって金額は考慮していただけるといいかと思います。

特に既存のお店ですと、もしも屋外にテラス席を設ける場合、テーブルとイスくらいでも設備増設は十分かもしれませんが、それでお客さんが増えたらお店側にとってもウィンウィンなのではないでしょうか？

また、そういった取り組みに参加してくれている飲食店には市から年に一回など何か特典または助成金などを出していただけたらと経営者の方もモチベーションUPにもつながるのではと思います。

あとは、多摩市には市でペットにも優しい街づくり、そういった取り組みを支援しています、ということを外部にアナウンスしていただきたいです。例えばホームページに載せるとか、参加しているお店が一目でわかるような目印があるといいかなとも思います。

(たとえばのぼりとかステッカーとか)

期待できる効果・さらなるお願い

もしこの取り組みがうまくいったら沢山の人がさらに多摩市に入ってきてくれます。

(移住だけでなく日帰り観光の方も増えるかもしれません)

また確実に多摩市のイメージアップにもつながります！

またこれは私の希望でもあるのですが、お子さんのいない人は将来、孤立してしまう可能性があります。

その時にペットを介して新しいコミュニティが出来て人と人がたとえ親戚ではなくてもお互いに助け合えるような関係になればとても良いなとも思います。今は令和ですが、その部分に関しては昭和のような温かい交流が出来たらみんなが幸せになれるのではと思います。

さらに言うと…そのあたりの人と人が孤立しない新しいコミュニティ創りというところもいろいろな工夫を多摩市に協力していただけたら嬉しいなとも思います。

最後に…

今は国としてお子さんやお子さんのいる家庭に対する手当などが増えていますが、それ以外の人への配慮が少ないように思います。もちろん子供が増えていくことは一番国や自治体にとっていいことなのは分かりますが、子供のいない人としては少し置いてきぼりのような心持ちになっている人も少なく

ないと思います。そこに目を向けて新しい視点からの取り組みをすることで他の市との差別化ができるのではと思います。

もし、家を買いたいと思っている人がいたとして、多摩市と違う市区町村とで悩んだときにこれらの取り組みを知って多摩市に購入しよう！という決め手になるかもしれません。

あと、本当に最後になりますが、先日少し印象的な出来事がありました。

私は桜ヶ丘公園のドッグランに行った時若い男性とお話する機会がありました。

その方は多摩市で生まれて、多摩市に育ち、多摩市で結婚して、多摩市に新居を買って、多摩市内で二人のお子さんを育てておられるとのことでした。

私が最近多摩市に引っ越してきたと話したら、多摩市がいかに素敵な市なのかということをとくさんたくさん教えてくれました！

多分これからもずっと多摩市に住む予定だとも言っていました。

また違う日に別のワンちゃんの散歩中の中年の男性ともお話をしました。

その方は多摩市内で三回引越しをし、ついに戸建てを買ってしまったと話してくれました。「多摩市がやっぱり僕は好きでねー」と…

まだ来て日は浅いですが本当に多摩市は人も穏やかで優しい市だと思います。

これから10年先も住む人みんなが笑顔である市でいてくれたら嬉しいなと思います。

長くなりましたが私の多摩市へのご提案でした。

お読みいただきありがとうございました。

3 「子育て・教育」分野 多摩第三小学校区に学童もしくはそれに準ずる仕組みを作ってください。

私の息子はまだ小2にも関わらず学童に落ちてしまいました。

市に問い合わせると、私共が希望した愛宕南学童クラブにおいて、30人ほど待機となっているそうです。

勧められた「ランドセル通所（愛宕児童館）」は愛宕南学童クラブよりもさらに遠く、長期休み中は9：30～の預かりで不便で困っています。

小1の時に児童館の先生より学童の児童に「おるすばん講座」をしていると学童の保護者会で説明を受けましたが、子どもばかりに我慢をさせたり、適応させようとしたり…だけではなく、大人も、私たちが子どもたちの場所を作りませんか？日野市や横浜市のように放課後の校庭を子どもたちに開き、大人が見守るという仕組みでもいいのです。

箱、建物じゃなくてもいいのです。

特に三小は学童から離れています。

建替まで待つ…では今の子どもたちは、その保護者は、私はどうして遅すぎます。

上司の寛容さで仕事の時間をやりくりして留守番の時間が1時間以内におさまるようにしていますが、学童に行けなくなって2ヵ月、息子はずっとその1時間以内の留守番でも寂しがって私に電話をかけてきますし、私ももっと仕事を、キリのいいところで終わらせたいと思っても切り上げて思うように仕事ができなくなりました。

	<p>何より息子は学童が大好きでした。</p> <p>とても大切に見守り育てて下さっている職員の方にお友だちをしっかり愛着関係を作れました。とても感謝しています。なのに…ですまないです。調べたところ、三小学区で学童の枠が少ないのはずっと続いているとのこと。</p> <p>働く親の増加…なのに枠は変わらない。</p> <p>保育園在園時より愛宕南学童はなかなか入れないとは聞いていましたが、息子が小学校入学する頃には解消するような仕組みがあるだろうと私も楽観視していました。</p> <p>私は私らしく、子どもは子どもらしくありたい。</p> <p>一個人の想いですが、他で待機となっておられる方々も大変なおもいをされていることと察します。</p> <p>どうかもうそろそろ腰を上げていただきたいです。</p> <p>私は2月に学童に落ちたときに市へ電話した際、こんなに待機児童がいる年が続いているのに学童を新設する予定はないのかと聞き、「無い」と言われたときの憤りをまだ持っています。子どもも我慢しています。本当の「子育てのまち」にしましょう。</p> <p>どうかどうかよろしく願いいたします。</p>
4	<p>「道路信号機の運用について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・35年前に比べ信号機はどのくらいふえたか？</li> <li>・それぞれ本当に必要か？</li> <li>・不必要に車を停車させて排気ガスがふえていると思う。赤の点滅などにできないか？</li> <li>・T字路など、昔は信号がなくても譲り合ってスムーズに通行していた。</li> <li>・安全性との兼ね合いもあると思うがぜひ見直すべき！</li> </ul>
5	<p>多摩市の良いところは、緑が多く、空が広く、自然豊かで暮らしやすいところです。行政も市民の声を大切にし、反映して下さるので安心して暮らせています。事件や犯罪も少ないと思います。駅周辺の掃除、ゴミたばこポイ捨て禁止、雑草、木々の手入れ等、きれいな街づくりのおかげも大きいと思います。レンガ坂の花壇がとても良くなりましたが、雑草が伸びるのが早いです。1か月に2回程度は雑草抜きが必要かと、シルバー人材センターで補えるでしょうか。</p> <p>今、心配なのは統一教会の件です。高校や大学に隣接し、高齢者も在住している場所で、社会で揉まれていない若者たち、認知症の高齢者は、状況判断ができず勧誘に傾倒してしまいます。本人だけでなく家族も巻き込んでしまう恐れが想像できます。防げることを願っています。</p> <p>今年1月に京王プラザホテル多摩が閉館し、寂しい思いをしましたが、中央図書館の建設は希望であり、支えでした。このような素敵な図書館をつくってくださりありがとうございました。</p> <p>暮らしの中で、他者にも目を向けて譲りあったり、労ったりする行動や会話がもっと増えていくと良いと思います。「どうぞ」「ありがとう」のような言葉をお互いがきちんと口に出して言うこと、一方通行では、なかなか思いやりの気持ちも長続きしません。</p>

	<p>京王プラザホテル多摩が閉館し、桜美林大学多摩アカデミーヒルズも現在解体工事中、商業施設クロスガーデン多摩は借地でその期限も近いと聞きました。延長されるのかもしれませんが、大規模な跡地が、どのような施設になるのか、どのような企業に売却されるのか1次売却、2次売却されても、多摩市の行政、民間の企業、市民で、共に見守り、時代の変化にも対応していく必要があるように思います。小田急多摩センター駅構内の小田急マルシェは改装していただきとても良くなりました。</p> <p>将来を見据えた街づくりを応援しております。よろしくお願いいたします。</p>
6	<p>多摩市コミュニティセンターの運営協議会に参加しています。およそ20年が過ぎました。市民「参画」・市民「協働」のエネルギーがまだまだ残っていた頃で、パソコンとインターネットの普及が進みだした時代でした。</p> <p>パソコンを習得していたのであつという間に役割が増え、現在は中心的立場にいます。行政と地域住民が顔の見える立場で地域コミュニティ醸成に関わる経験は得難く、現在も携わることができることに感謝を感じています。しかしながら今後を危惧するあまりこの機会に一文提出いたします。</p> <p>多摩市コミュニティセンターの運営形態は自慢すべき施策です。しかし高齢化の波から逃れることはできません。管理運営の指定管理者団体として今後の10年を直視できずにいます。10年ほど前より担い手不足に当運営協議会は悩んでいましたが、その間に社会状況の変化は著しく、リタイア層の取り込みは困難となっています。その理由は年金制度の影響から働き続ける状況が生じ、若いも若きも人生設計に余裕がなくなっているように思います。さらに追い打ちをかけたのがコロナ禍です。</p> <p>運営者の皆さんの誇りや役に立ちたいという想いがコミュニティセンター9館を支えています。年齢も高くなり、ボランティアにしては責任と仕事量も多く、一部の人に頼ったこの現状は、いずれ継続が困難となることを予想します。</p> <p>施設のミッションは意義あるもので取り組みも充実しています。現在行われている運営のノウハウを土台にして仕組みを徐々に変えることはできないかと。立派な施設をさらに有効的に運営・活用し続ける仕組みです。</p> <p>具体的な方法は挙げられませんが、しいて言うなら業務委託（民営化）のような構築が近いのでは。そのあたりのことは行政の皆さんが詳しいと思いますので、一考をお願いします。</p>
7	<p>総合計画審議会のみなさんが多摩市のこれまでのこと、これからのことを振り返って議論し、この基本構想素案を練ってくださったことに感謝します。</p> <p>実は、もっと文章を簡潔にしてほしいと思うところが多々ありますが、この点についてのコメントは省きます。その上で、まとめられたこの素案を読むと、その中心は、このまちで生きている人々「だれもが幸せを実感できる」（第1章）ためには、孤独に生きていてはだめで、子どもなら、子ども同士はもとより、多くの周りの人たちと関わっていくなかで育っていく（第5章1）、体や心の病や高齢化で大変になっている人たちも、さまざまな機関とそこでの職員との沢山の関わりをもてることで救われていく（第5章2）、大学も含め、学校や研究機関も、会社等の事業者も、先を急いで競争し合うのではなく、他の機関・組織と出会うことで、このまちで仕事をしていることの「幸せを実感できる」（第5章4）、自然災害に直面しても、あるいは今後直面すると思って不安になっても、そういう不安を他の人たちと共有し合う機会があれば、少し安心し、前向きになれる（第5章5）、緑が多い環境に暮らす喜びを、もし他のひとたちと共有できれば、この緑の中に多様な生物が生きていることへの感動をさらに深くすることができる（第5章6）、だから、ただ「つながって」一緒に何かしていればいいのではなく、「幸せを実感できる」ような市民活動、学習・文化活動（社会教育）が、身近</p>

な地域に広がってほしい（第5章3）、そんなふうに、読み取りました。

つまり1971年に総合計画が立てられてから50年、古くからの住民はもとより、ニュータウン地区内外に新しく入居した人たちもすでに次の世代へと歴史を重ねてきています。それでも、多くの人は、多摩市全域はもとより、自分が住んでいる近隣でもお互い顔見知りという人がそう多くはないと、「都市化」社会の典型的な傾向が、何十年経っても根深いことを多摩市でも改めて実感されているのだらうと思います。

この問題は、単に、（第5章3）のコミュニティ政策で解決できる問題ではないと思います。

そこで、「第6章 行政運営の基本姿勢」では「担うべき基本的な業務やセーフティネットをしっかりと維持していく責務」があることは前提だと、前置きで書かれていますが、まさにその「基本的業務やセーフティネット」の仕事の中で、あきらめて、あるいは他者を気にとめず、孤独に、あるいは孤軍奮闘して、生きている人々に、そうではない対処方法、生き方があると示唆するような、励ますような観点を入れ込んで、各部門の職員の仕事として位置づけていってほしいと思うのです。

行政運営としては、無駄な支出はしない、大事な仕事にお金をかける、仕事を担う職員に力をつけて行ってもらう（やる気・誇りと共に）は当然のことです（第6章 1～4）。その上で、第5次基本構想で、「地方分権から地域主権へ」「地方自治体が主体的、独自性を発揮する地方政府を確立する」とされていた点は踏襲し、すでに何十年にもわたる活動の中で育まれてきた、活動する市民たちの力を、もっともっと多くのひとたちへと広げていくように、それを支えるしかけを、あらゆる行政分野で、中心に据えて考えてください。

もう陳腐になっている「無作為抽出ワークショップ」は、関心を引き出す「教育方法」としてはあり得ますが、「市民参加」の手法としては、やる気のある市民を疎外し、市民間を分断する、行政主導の、矛盾の多い手法だと思えます。

8

第六次多摩市総合計画基本構想を拝読しました。

平易な文章でわかりやすく、量も抑えられていてとても良いと感じました。内容に関しても良いと思います。

しかしながら、いつもこういった行政の文書を読むと思うのですが、ここからどう市民に伝えて実行していくのか、また市民としてもどう関わっていけば良いのかが見えづらいのです。

基本構想をまとめました→綺麗に印刷製本しました→本棚に四次や五次と並べられました

という末路（失礼！）が見えてしまいます。

もちろん広報やホームページにも掲載して伝える努力はされているでしょうが、この基本構想をベースに様々な行政の運営がなされるのであれば、もう少し噛み砕いて市民に（行政内部にも）落とし込んでいく、浸透させる努力が必要かと思えます。

具体的にはビジュアル化です！カラーにして、イラストやグラフや図などを使用するなどです。マンガなども良いかもしれません。ちゃんとした文書版と概要版を作ってもいいかもしれませんね。

内容に関してではなく、表現方法への意見でした。